

Letters

Arpak

レターズアルパック

VOL.223

ISSN 2432-5295

あじ

CONTENTS

◆【あじ】…01～04

・素材の風味を引き立て、ベトナム料理に欠かせない味!・飲むほどに酔うほどに地域が豊かなる焼酎～「環」・地域の風土が味噌のあじをきめる・薄口醤油発祥の地 龍野・まち歩きの醍醐味～マニアとの出会い・味のある写真・天然酵母パンを自宅で作る

◆今、こんな仕事しています…05～08

◆事務所だより…09

◆近況&イベントのお知らせ…09～10

◆まちかど…裏表紙

・界隈性を科学する

あじ

開放感はあるても、暑くてなんとなく過してしまいがちな夏も永遠に続くことはなく、気づいた時には肌寒さを感じる秋を迎えます。私たちの身体に備わっているさまざまなセンサーの感度が高まる季節です。

人間には5種類(＋α)のセンサーがあるといわれています。視・聴・嗅・味・触の5つに、もう1つ加えることもあります。それぞれのセンサーが担う感覚は独立しており、音、匂い、味などはわかりやすい例です。ところが「味」は、特に「あじ」と書いた時に舌で感じる感覚にとどまらない、幅広い感覚を意味するようにもなります。その証拠に、いわゆる味覚に関わるもの以外にも「あじ」とつく言葉がたくさんあります。「あじ」は6つのセンサーを総動員して感じる総合的な感覚なのでしょう。

そんな思いでテーマを「あじ」としましたが、所員の寄稿文にイメージネーションの広がりを感じていただくことができたでしょうか。

レタースパルバック編集委員会

素材の風味を引き立て、ベトナム料理に欠かせない味！

ホアンゴックチャン：地域産業イノベーショングループ

近年、嬉しいことに、日本でもベトナム料理の人気が高まりつつあります。ベトナムの味といえば「フオ」や「バクチー」「バンミー」等思い浮かべる方が多いと思いますが、私にとつては、「ヌックママ」です。

気のせいかもしれませんが、海外からホーチミン市の空港、国際ターミナルに着陸するたびに、ヌックママの香りがします。「ああ、帰ってきたんだ」とふと思います。

初めての海外渡航でもあり、京都に留学する時に、洋服と本の他に荷物に包んだのはヌックママ1本というくらい私にとって大事な調味料です。今でも、食欲がない時には、炊き立ての熱々ご飯に数滴のヌックママをかけていただきます。

そもそもヌックママは何だと疑問を持つ方もいらっしゃるかもしれません。一言でいうと、ヌックママはイワシ類の発酵食品であり、ヌック水、ママ魚介類の発酵食品を意味しており、すなわち日本の魚醤です。

ヌックママの旨味を決めるのは素材となる魚であり、その中でも私は Phu Quoc 島のヌックママが好きです。



Phu Quoc 島内のあるヌックママ製造工場

レタース(216号)でも紹介しましたが、2019年にアルバックの地域産業イノベーショングループで Phu Quoc 島を視察した際、島内のヌックママ工場を訪問しました。そこで職人さんのお話を伺うと、Phu Quoc ではヌックママを作るのに、地引網漁で大量の新鮮なイワシ類を引き上げた直後、その船ですぐ塩を振ることで、魚の鮮度を最大限に活かし、臭みを抑えます。「魚10対塩4」の割合で塩漬けし、木製の樽に1年くらい熟成させるそうです。恵まれたタンパク質の高い魚と職人の良い腕が相まって、Phu Quoc 独自のヌックママができ今でもベトナム人に愛されています。

現在、Phu Quoc 島に200

【おまけ】

「自家製のタチウオヌックママ煮の自己流レシピ」

- 1) タチウオは両面に塩をふって、色がつくまで軽く焼きます。
- 2) パイナップル、砂糖(適量)、ヌックママ(お好みで調整)、生姜(適量)、唐辛子(適量)、お湯を全て入れて強火で加熱し、沸騰したら火を弱めて、タチウオを入れゆっくり煮込みます。



自家製のタチウオのヌックママ煮

カ所程度のヌックママ工場が活動しており、未だ島の主産業となつています。しかし、市販開拓力のある大手メーカーに勝てず、伝統産業の勢いがなくなつてきており、閉鎖せざるを得ない工場も少なくありません。ヌックママのファンの一人として、悶々としています。

PS: 上記の写真のように、1樽には4000gが入っていると言われています。

飲むほどに酔うほどに地域が豊かなる焼酎～「環」

山田龍雄：(株)よかネット（九州事務所 所長）

<https://www.facebook.com/pg/joyo.imop/posts/>



昨年、11月初めに実施した収穫祭

九州、特に鹿児島、宮崎は焼酎文化であり、熊本は米焼酎発祥の地です。特に人吉・球磨地方には28箇所の米焼酎の蔵があり、個性豊かな焼酎を造っています。大分は主に麦焼酎の土地柄です。福岡県においても明治初期から朝倉地域の方で「らんびき」という麦焼酎が製造されてきており、今では福岡県の多くの酒造所で日本酒以外に、焼酎を造っています。

九州、特に鹿児島、宮崎は焼酎文化であり、熊本は米焼酎発祥の地です。特に人吉・球磨地方には28箇所の米焼酎の蔵があり、個性豊かな焼酎を造っています。大分は主に麦焼酎の土地柄です。福岡県においても明治初期から朝倉地域の方で「らんびき」という麦焼酎が製造されてきており、今では福岡県の多くの酒造所で日本酒以外に、焼酎を造っています。

このような焼酎文化の土地柄である中で、私は11年前から八女市上陽町の休耕地を活用し、都市住民と地元の方々と一緒にコガネセンガンという芋を栽培し、焼酎にして販売するプロジェクトに取組んでいます。実際の焼酎製造は地元の後藤酒造場をお願いして造ってもらって

います。このプロジェクトのきっかけとなったのは、平成22年度の国土交通省モデル事業「過疎地域の安心・安定の暮らし維持構想」の中で地元の方とのワークショップで、休耕地活用アイデアとして生まれたものです。焼酎は、四号瓶で1600円と大量生産の焼酎に比べて割高となっていますが、一本当たり300円の基金を積み立て、この基金を地域で頑張っている団体に寄付をし、地域活性化の応援をしています。



手づくり焼酎「環」のチラシ

地域の風土が味噌のあじをきめる

植松陽子：サスティナビリティマネジメントグループ



スーパーに並ぶ調理味噌コーナー 減塩タイプもあります

愛知は赤味噌文化圏。なごやめしといえは赤味噌のイメージも強いのではないだろうか。思いつくだけでも、味噌カツ、味噌煮込みうどん、味噌おでん、どてなど。愛知人ならば、どれもが家庭の食卓にも上ります。そして、何でもかけられる調理味噌。我が家の冷蔵庫でもマヨネーズの隣に常に陣取る、スーパー万能調味料です。

豆味噌を食すのは東海地域だけ。尾張三河のやせた土地でも作れる大豆のみを使った豆味噌は、この地域特有の夏の高温多湿によって米麹などを使わなくても発酵が可能であり、また高温多湿でも長期保存できるという点からこの地域の方に根付いたのではないかと、とも言われています。徳川家康が名古屋城の築城にあわせて大量生産を行い、需要が大きく拡大して今に至っているとも言われています。いまや赤味噌は愛知人のソウルフードです。

豆味噌の中でも特に有名なのは岡崎の八丁味噌です。岡崎は、矢作川の綺麗な水に恵まれているうえ、矢作川を利用した水運が発達し、東海道の宿場町でもあったことから、塩や大豆などの調達が可能であり、江戸に味噌を運ぶための条件も揃っていたようです。

地域の風土によって変わる味噌の味。気候変動によって高温多湿が進むことが懸念される日本各地で、赤味噌が広まる日おとずれる？



家で作る肉みそ 何にかけても美味しい

ほのかなる人のなさに似るものか、龍野醤油のうす口の味。これは劇作家であり、放蕩歌人とも言われた吉井勇が昭和34年、龍野の文芸活動団体の招きにより龍野を訪れたときに詠んだ句です。

龍野に醤油生産が広まったのは、播州平野が育む良質の小麦や大豆、赤穂の塩、揖保川の軟水などの原料に恵まれていたことが大きな要因です。

醤油は熟成が進むほどに色も味も濃くなりますが、関西、とりわけ京都などでは、素材の持ち味を生かすため色の淡い調味料が求められました。それに応えるべく、様々な工夫を凝らし、熟成期間を短くするなど色は薄いままで、塩分濃度は高く、ほんのり甘い淡口醤油の技術が確立しました。

淡口醤油は揖保川の水運を利用した舟便により、大阪や京都といった大消費地へと運ばれ、味を尊重する人たちに好評を博しました。

冒頭の吉井勇は、華族として東京に生まれながら、京都祇園を愛し、戦後には京都府八幡市の松花堂付近に移り住み、龍野を訪れた翌年には74歳の生涯を



醤油醸造の煙突が残る龍野の町並み



終えています。晩年に訪れた龍野のうすくち醤油に京都祇園での思い出や激動の人生を振り返り、感慨深いものがあつたのではないかと想像されます。

たつの市龍野地区は昨年末に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。（本誌219号に掲載）これを機に今後ますます地域の活性化に取り組んでいくわけですが、町並みを保存するとともに、先人たちの育んできた「あじ」や「美しい町並み」を次世代に繋いでいけるようなお手伝いをしていきたいと考えています。

まち歩きの醍醐味～マニアとの出会い

中村孝子：企画政策推進室

これまでもレタースで何度かご紹介していますが、近代建築、廃墟、銭湯、登山、島、御朱印、マンホール、灯台、タイルなどに興味があり、時間があれば各地のまち歩きをしています。

まだまだ知らない世界を広げるため、マニアックなツアーにも参加しています。もちろんSNSなどのグループ情報も活用していますが、積極的に個人と友人になることはしていません。とはいっても、ツアーやイベントで顔をあわすメンバーは、大体同じです。みんな何かしらマニアの一面を持っています。情報交換が始まり、新たにツアーを企画したりします。そして、世界はどこかでつながっている不思議がきます。

興味があるものを極めていくマニアは、いわゆる「オタク」といわれ特殊な世界だと思われると思います。現在、その存在は、別に恥ずかしいものでもなく一



最近、関心のあるスターハウス（バックは給水塔）



最近、見学をスタートした円形校舎

般化してきていると思います。かくいう私も自分が「オタク」だと思っていまません（笑）

さて、仲間となった人たちと一緒にまち歩きをしていると、団地、長屋、学校など建築の世界だけにとどまらず、煉瓦、公園、面格子、角打ち、レトロな食堂などなど、今まで気にもとめていなかった「気づき」がたくさんあります。好奇心が旺盛な私の世界は、さらに広がります。時間がたりない状態になりつつあります。これぞ、まち歩きの醍醐味といえます。



収集している灯台カード

味のある写真

小島みのり：都市・地域プランニンググループ



地元中国ではしゃぐ友人

最近、長年愛用していたカメラが壊れてしまいました。有名な写真家からも定評のあるGRという機種です。最新版は高価すぎて手が出せなかったため、何世代か型落ちした中古品を学生時代にバイトで貯めたお金で手に入れたものでした。

手に入れたはいいものの、このカメラ、画質はiPhoneより悪いしブレるしズームはできないし、とにかく使いにくかったです。ブランド名に惑わされずにもっと使いやすいやつを買えばよかった：結構高かったのに：と後悔しました。

しかし、使い慣れていくうちに、画質の良い最新のカメラでは捉えられないような、味のあつた写真を撮ることができている気がしてきました。カメラの性能でカバーできない分、撮影時に無意識に気をはるようになったからか、ブレや光の漏れ等のノイズをありのままに捉えてしまうからか、技術的に現実を正確に記録するのには向いていませんでしたが、カメラの個性とそれを使用する自分の意志がうまく混ざり、味を引き出しているように思います。

高性能なもので溢れている毎日ですが、その中に隠れている不便さや面倒臭さに向き合ってみると、思いがけない味を発見できるかもしれない。そんなことを考えさせてくれたカメラでした。



女川町（宮城県）の獅子舞



どこに行っても人が多い中国

天然酵母パンを自宅で作る

江藤慎介：地域産業イノベーショングループ



2017年末頃から自宅で天然酵母パンを作り始めました。少し余裕のある平日の朝や、時間のある週末朝にパンを捏ねる日々は、年間144回（2019年）。アレルギー体質の家族がいること、妻が以前からパンづくりをしていたことなどのきっかけはありますが、天然酵母パンを自宅で手づくりする魅力を5点で紹介します。

① やつぱり美味しい！出来立てを食べられるのは勿論、噛みしめると味わえる風味、冷凍しても変わらない美味しさなどを自宅で味わえるのは格別です。家族にも好評ですよ。

② 意外と手軽！生地づくりに15分、一次発酵で1日寝かせ翌朝に成形30分。オーブンで約20分焼いたら出来上がり。いつもより少しだけ早く起きれば、ワーク・ライフ・バランスの改善にもつながります。

③ 食べたいパンをつくる！はじめはフランスパン生地の丸パンから。徐々にフォカッチャやベーグル、粉を変えて全粒粉パンやライ麦パン、そしてメロンパンやカレーパン、プレッツェル（ただし重曹液）まで。私のオススメはベーグルです！

④ パンを捏ねる楽しさ！コンピュータ仕事が多いなか、パン生地という「ナマモノ」に触れる感覚、思うようにいかない発酵食と向き合う時間は新鮮で刺激があります。

⑤ いよいよ自家製酵母へ！関心が高まり、レーズンから始まり、ミントやモモ、ブドウ等でも自家製酵母づくりにチャレンジ中。過発酵しやすいなどの失敗も多いですが、パンの風味が変わる面白さに、ますますパンづくりにハマりそうです。

原田弘之：
地域産業イノベーショングループ

ダム事業による 10 年以上の休耕を経て新しく
よみがえる地域農業ー農事組合法人茨木おおいわの設立ー



コナハ禍の2020年6月に30名以上の組合員（地権者）が大岩地区公民館に集まり、「農事組合法人茨木おおいわ」の設立総会が開催されました。

当地区は、大阪府茨木市の北東部の安威川上流部にあります。1960年代の大雨被害や水需要への対応のため安威川ダム事業が構想され、紆余曲折はあったものの事業は継続されて、当地区ではそのダム建設に伴う残土を受け入れ、加えて農地のほ場整備を行ってきました。その関係で2007年から休耕状態になりました。

各農家にとっては、休耕補償は入るものの、担い手は確実に歳をとり、農業技術だけではなく、体力や気力も衰え、農業機械も老朽化します。そんな中で、ほ場整備完了予定の2021年の営農再開をどう考えるかについて、2016年より検討してきました。

在外地主も含めた地権者への
アンケートや話し合い、事例視
察等を重ねた結果、ダム事業の

影響とはいえ、税金を投入して整備した農地を遊ばせるわけにはいかない、しかし、個々の農家が営農するには人材や農業機械も含めた負担が大き過ぎるということで、共同で事業体をつくって営農する方向になりました。事業内容や税金等の面から法人形態を検討し、農事組合法人を選択した上で、営農による収入や、農業機械や設備の購入や更新、作業人員の見通しなどを踏まえた事業計画や中長期も含む収支計画を検討し、農地面積14・3ヘクタール、組合員数35名、出資金3000万円弱(20万円/10アール)で法人を立ち上げることになったのです。個々の農家が機械設備を購入するよりは、はるかに安い初期投資です。

実際の営農作業は2021年春から始める予定で、まずは全面に水稻を作付し、様子を見ながら高付加価値米の生産や販路開拓へ展開し、ゆくゆくは、周辺に新名神高速道路のICや彩都があり、また安威川ダムを活用した観光活性化拠点等の整備も予定されていることから、それらと連携した観光や交流型の農業経営もできればなあという夢を語り合っています。

※本事業は当社としては2017年度から継続的に支援しており、地域産業イノベーションセンターの武藤も担当しています。

〇〇禁止ではなく、できることを増やす「育てる広場」

茨木市役所前に「IBALAB@ 広場」がオープンしました！

太田雅己：
地域再生デザイングループ



広場内覧会の様子

茨木市の市民会館跡地エリアでは、市民自らが考え、使い、育てていく「育てる広場」をコンセプトに広場の検討・整備が進められており、2023年度には新しい施設と芝生広場が完成する予定です。

新施設が整備されるまで、3年半の暫定的利用のための広場が「BALAB@広場」（イバラボ広場）です。

イバラボ広場はインターロッキング舗装の「下の広場」と、芝生と防災倉庫兼キッチンの建物がある「上の広場」があります。下の広場が6月からオープンしており、スケボーやBMXなど、いわゆるストリートスポーツの若者を中心に、生き生きとした活動の風景が生まれています。

一方で、夜中のスケボーによる音や、花火や焚火による火の使用が問題になっています。



ワークショップの様子：コロナ対策のためスクール形式

夫やルールがあれば様々な広場
利用が実現できるのかを、全4
回のワークショップを通して参
加者と一緒に考えています。



ワークショップの様子：コロナ対策のためスクール形式

だからと
いてす
ぐに禁止
とはいわ
ず、共存
しながら
、市民
のできる
ことを増
やすため
に、どう
いった工

第3回目のワークシヨップでは、「火を使うときは水を用意する」「利用時間を決めて専有しない」「音を出すときは音量に気を付ける」など、ルールにつながる様々なアイデアが出ました。次回の第4回では、今回の提案を踏まえて事務局で作成するルール案を元に、参加者と議論し、ルールをブラッシュアップしていく予定です。

上の芝生広場のオープンは10月ですが、先んじて9月から週末だけのイベント利用が始まっています。10月末には広場のキッチンを利用した、事業者によるカフェ営業もはじまる予定です、広場のある日常が浸透していくことが楽しみです。これからは「IBALAB®広場」が育っていく様子をご期待下さい。

ワクワクする船場のまちづくり

※コンペの概要及び結果は、こちらをご参照ください。
<https://sembacompe.net/>



中井翔太：
 都市・地域プランニンググループ



ウォーカーブル船場 2020 社会実験(11/8@ 大阪市中央区高麗橋3丁目)
 車両通行止めにより、街路空間の再編を可視化

アルバック大阪事務所が、「船場」の地に居を移し、約4年。地元のみちづくり活動のお手伝いを通じて、少しずつ地域に馴染んできたのかなと感じています。

アルバックも参加しているまちづくり組織「船場倶楽部」の活動をご紹介します。

船場は、一時の停滞期を乗り越え、近年、タワーマンションやホテル等の建設ラッシュが進み、活力が高まりつつある状況にあると言えます。そんな中、新しくユニークな活動が生まれ続ける新たな都心の将来像を描くため、提案コンペ「船場2030」ワクワクする船場のこれから」を昨年、開催しました。

そして、今年度からは、提案いただいた将来像の可視化に向けた

- ①ワンメーターズプロジェクト：with コロナの時代に公共空間を楽しみつつ、人々の「やりたいこと」が実現できるまちなかづくりに取り組む。
 →「ワンメーターズプロジェクト in 久宝公園」を10/24に開催予定
- ②ウォーカーブル船場：街路空間の歩行者優先化や官民空間の一体利用など公共空間再編に取り組む。
 →「ウォーカーブル船場 2020 社会実験」を11/8に開催予定

け、コンペの受賞者と倶楽部の有志メンバーでチームを立ち上げ、左の表のような実験的な取組にチャレンジしています。

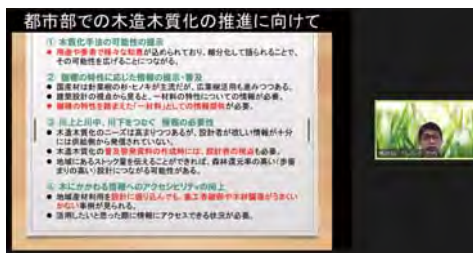
これらのプロジェクトをはじめ、様々な活動がフツフツと沸きつつある船場に、今後、ぜひ、ご注目ください！



ワンメーターズプロジェクト in 久宝公園
 (10/24@ 大阪市中央区北久宝寺町 3-1)
 ソーシャルディスタンスを意識しつつ、公園を楽しむ仕掛けを実践

都市建築の木質化シンポジウム（オンライン）を開催しました

中川貴美子：
 サステナビリティマネジメントグループ



今回、オンラインということ

で全国から約100名の方に、

現在、伐採期を迎えた豊富な森林資源の有効活用、地域活性化、脱炭素化や森林譲与税の動きから、非木造（中大規模建築物）の木造へ木質化が期待されています。

これまで、関西広域木造建築普及促進協議会（事務局：（一社）大阪府木材連合会）とともに、都市木造の一般化に向けて、戸建住宅以外の都市での木造・木質化をターゲットに調査を進めてきました。調査では、約1年間の建築雑誌で取り上げられた建築物にどこにどんな木材が使われているのか、また設計者はどんな意図で木材を選んでいるのかを深掘りしてきました。その結果のお披露目として、先日、新型コロナウィルスで延期していたシンポジウムをオンラインで開催しました。

パネルディスカッションの様子
 ご参加いただきました。講演では、都市で建築物をつくるために必要なこと、都市木造木質化の動向について、安井



とりまとめた冊子

※この業務は、畑中直樹、竹内和巳、盛川正和も担当しています。

なお、今回の調査結果を踏まえて、利用パターン集としてとりまとめを行いました。詳細をご覧になりたい方はお問合せいただければお送りいたします。

昇氏（桜設計集団一級建築士事務所代表）、五十田博氏（京都市大学生存圏研究所教授）からご紹介いただきました。また、パネルディスカッションでは、久山幸成氏（クラインダイサムアーキテクト）、河野友弘氏（榎大和ハウス工業）よりこれまで取り組まれた木造木質化事例をご紹介いただき、設計士の視点からその意義について語っていただきました。今、都市での木造木質化に関する事例が積みあがってきています。一般化に向けて法整備等が少しずつ整う中で、その環境を使いこなす知恵・技術の普及、人材育成・交流のフェーズに移ってきているように感じます。引き続き、木材を誰もが気軽に選べる社会に向けて取り組んでいきたいと思っています。

堀川出水団地第三棟及び下立売団地の改修設計を担当しました。

塗師木伸介：

建築プランニング・デザイングループ



梔子色を取り入れた階段室

皆さんは京都市の堀川通沿いに6棟の団地が立ち並び堀川団地をご存知でしょうか。

堀川団地は戦後復興期の1950年頃に住宅難解消と商店街の復興を目指して建てられた店舗付き集合住宅（いわゆる下駄履き住宅）です。竣工当時とは文化的、衛生的なアパートとして大変人気を博し、1階の商店街も戦後復興に大きく寄与しました。その後、時間の経過とともに老朽化、再生の議論を経て、6棟の内4棟を改修、2棟を建替えることが決定されました。アルパックではその内の2棟（出水団地第三棟、下立売団地）の改修設計を担当しました。

再生に際して、改修する住棟では、多様な人が住める環境とするため、様々な住戸タイプの整備やエレベーターの設置、耐震改修等が行われることとなりました。また、再生のコンセプトとして「アートと交流」が掲げられ、堀川通の新しい顔となることを目指しています。それらの方針を踏まえ、我々は改修設計をまとめていきました。

外観等は基本的に当初の意匠を引き継いでいますが、いくつか



外観：出水団地第三棟



面影率50%住戸。古い要素を残しながら新たに土間や風呂、トイレ等を整備している。

都の伝統的な格子の寸法やデザインを参照したデザインとしています。また、建物が位置する西陣エリアの魅力発信に寄与するため、階段室の壁と天井に伝統的な染物の色を取り入れ、夜間には照明によりその色が外に漏れ出すように設計しました。住戸内は各住戸で古い部分を残す割合（面影率）を様々な定め、昔ながらの古い住宅と新しい要素が共存しながら現代の生活に適応するようにしています。

建設から約70年が経過した堀川団地ですが、今回の改修や整備によって次の時代においてもまちの賑わいの中心として受け継がれていくことを目指しています。

※本業務は建築プランニング・デザイングループの原田稔、杉本も担当しました。

観光まちづくりのマインドセットを学ぼう ～しが観光人材育成アカデミー～

高野隆嗣：

地域産業イノベーショングループ



戸顧問より、ウィズコロナ・ポストコロナ時代の課題について問題提起を受けました。

第2回は8月下旬。近江

地域を元気にするのが私たちの願い。地域資源を生かした観光振興に日々取り組む観光協会は大切なパートナーです。

滋賀県内の観光協会や市町のご担当者を対象に、公益社団法人びわこびじターズビューローが取り組む観光人材育成事業においてコーディネートとして関わる機会を頂きました。

事業の主眼は、県内の多様な主体が連携した「観光まちづくり」のレベルアップを図ることにあります。3カ年計画の2年目に当たる今年は、観光まちづくりの中核人材に相応しい「マインドセット」を学ぶ研修をご提供しています。

県内外で活躍する観光セクターの実践者を招聘し、実体験に基づくお話とフィールドワークを中心に全5回で開催しています。初回はびわ湖汽船(株)の川

八幡観光物産協会の田中事務局長より、同市の観光まちづくりの歩みとDMO設立のご苦労を伺った後、観光ボランティアガイドの皆さんの案内で、盛夏の八幡堀界隈を散策しました。また、鳥羽市観光協会の世古専務理事をお招きし、ふるさと納税制度を活用した「稼ぐ観光協会」の成功譚に大いに盛り上がりました。

第3回は9月中旬の長浜。NPO法人まちづくり役場の山崎理事長から、4半世紀に渡り黒壁と二人三脚でまちづくりを牽引された経験談を伺い、長浜のまちをフィールドワーク。

また、田辺市熊野ツーリズムビューローのブラッド氏を招聘。外国人目線で取組む施策が日本人にも心地よい観光インフラとなることの気づきを頂きました。

県内の市町から集う受講者は30数名。講師の多くは身近な先進地の方ばかりですが、「身近過ぎて知らない」のが現実。毎回、諸先輩の苦労話に大いに盛り上がり、勇気を頂きます。

ポストコロナの観光政策は見通しが立ちませんが、観光振興に取り組む皆さんが希望を持つことが第一歩。へこたれず、前を向いて、汗をかき続ける者に女神がほほ笑む。そのことを諸先輩が教えてくれます。

元中学校跡地を地域で運営しはじめて1年が経ちました

竹内和巳：
地域再生デザイングループ



昨年夏に行われた地域のお祭り



毎月行われる利用者会議

京都市伏見区向島地域では、地域が主体となって立ち上げた組織が、中学校跡地を市から暫定的に使用許可を受け、管理・運営を行っています。

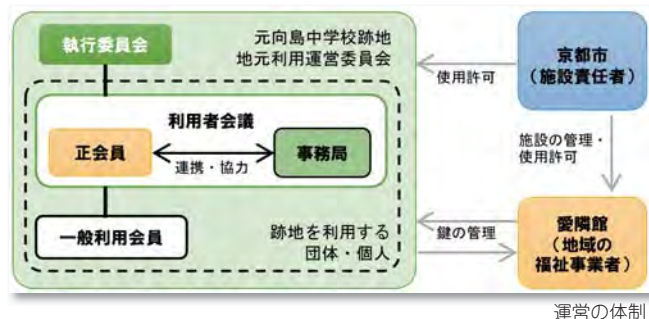
京都市では、「向島ニュータウンまちづくりビジョン」を住民とともに策定し、『誰もが活き活きと暮らせる向島ニュータウン』暮らし心地を誇れる「多文化・多世代共生」のまちを目指して、まちづくりの推進に取り組んでいます。

取組を進める中で、向島地域（特にニュータウン地域）には、学区や街区をこえて集える場所がないこともあり、地域からは活動の場を望む声が上がっていました。そこで、2018年度から、学校跡地などをまちづくり活動等の場として活用するために、地

域と行政とで使うためのルールづくりや運営体制などについて相談を進めてきました。そして、2019年7月に「元向島中学校跡地地元利用運営委員会」が地域主体となって立ち上がり、地元利用が開始されました。現在は「むかちゅうセンター」の愛称で親しまれています。当初14主体だった会員も34に増え、日々の利用も大幅に増えています。

月1回、会員が集まる定例会議を開催し、円滑な運営に向けて取り組んでいます。

アルパックでは、会の立ち上げや事務局の支援を行っています。これからもセンターが地域の活動拠点として活発に運営・利用されてほしいと思います。



気候変動の影響予測等に用いるデータセットに関する意見交換会に参加しました

長沢弘樹：
サステナビリティマネジメントグループ

今年の夏も水害が多発しました。特に7月上旬は九州や東北など、全国的に被害が重なりました。近年、夏になると地球温暖化や異常気象を意識することが当たり前になっていきます。

今後「異常気象」が増えるのかという問いに答える方法の一つが、将来の気象予測を元にその影響を評価すること（影響評価）で、そのためのツールが将来の気温や降水量、日射量等を予測した「気候シナリオ」と呼ばれるデータセットです。国内では気象研究所やJAMSTEC（海洋研究開発機構）等で開発されています。

当社もこうしたツールを使用し気候変動による「適応策」等の調査研究を進めています。関連して、気象庁気象研究所の「データセット意見交換会」（全3回オンライン）に参加したので紹介します。

現在、気象庁や文科省の研究プロジェクトによる予測データ等を取りまとめて提供する「データセット2022」事業が進められており、将来的に気象専門家だけでなく、様々な分野の利用者向けのデータセットが提供される予定です。

そのため、①防災・農林水産・

自然・再生可能エネルギーなど多分野で活用可能な多様なデータを提供、②複数の予測データ各々の特性の説明や使い方の解説等の提供（現在も一部あり）など利用者への支援を高める方針が出されています。

一方、利用者側からは現在個別に提供されている陸上・海洋・気象のデータセットの統合や、予測値の不確実性情報の提供等が要請されていました。

私どものようなデータセット利用者としては、まず「使うことができる」ため、次に「より適切なデータ利用」「正確な影響評価」のための支援が欲しいわけで、各々の方針や要望は首肯できるものばかりでした。

＊ ＊ ＊

気候変動の適応策は今後ますます重用になるでしょう。今回のような取組によりデータセットの守備範囲が広がり、より多様な成果が出るとの期待が高まります。末筆ですが、様々な関係者が集まる会議の開催に尽力された関係者の方々に感謝の意を申し上げます。



「一服の清涼剤？鯛焼き」

東京事務所 佐藤衣織

東京事務所は千代田区神田にあり、ＪＲ神田駅から「神田駅西口商店街」を歩いて徒歩７～８分のところに位置しています。

商店街は居酒屋が多いため、お酒の飲めない私にとっては事務所までのただの通過点でしかありませんでしたが、去年の冬に差入れて頂いた「鳴門鯛焼本舗」の鯛焼きに出会ってからは商店街の中で一服の清涼剤的なお店となりました。

私のおすすめはやはり、十勝産小豆の鯛焼きです。薄皮であんこが尻尾までびっしり入っていて疲れた体に甘さが染み渡ります。一尾でも満足感の得られる品です。他にも、鳴門金時芋やプレミアムカスタードとあんこが苦手な方にも食べやすい商品も揃っています。

大阪や京都にも店舗が多い鯛焼きチェーン店なのでお店を見つけた際には東京事務所を思い出してもらえたら幸いです。東京にお越しの際は、是非お気軽に事務所にお立ち寄りください。



「いろんな顔があります。新地と山と。」

地域再生デザイングループ 小川直史

滋賀営業所が位置する東近江市は、いわゆる「明治の大合併」「昭和の大合併」を経て、平成 17 年に 1 市 4 町が合併して「東近江市」が誕生しています。さらに平成 18 年には 2 町と合併し、現在の東近江市に至っています。そのため、様々な歴史や顔、性格を持つ地域です。

延命新地地区に位置する営業所から、車で 40 分ほどのところに「小椋谷」があります。2018 年度に木地師文化発祥の地として林業遺産に認定された地域です。木地師とは広葉樹の木を伐採し、轆轤（ロクロ）を使って盆や椀、こけしなどを作る職人のことで、東近江市小椋谷はその木地師文化発祥の地とされています。木を材料にすると共に、木を適切に伐採し、山や森林を守る役目も木地師が担っていたと言われています。

そんな、古くからひとびとの手によって守られてきた小椋谷が、今年もゆっくりと色を帯びてきました。この秋の休日にいかがでしょうか。



色づく小椋谷（撮影者：南 和宏）

事務所だより

関西ビジョン研究会講演会「万博を軸に関西の観光力の再興を」を開催しました

馬場正哲

顧問・主席研究監

関西は、このところ将来ビジョンが明快でなく全体で共有できていない状況にあるといえます。その上にこのコロナ禍に見舞われ、これからの社会経済情勢の先行きに大きな不安も想定されるなか、日本や国際的な視点から関西の未来の役割を追求し、目標を持って対処していくことが今こそ求められます。そのため、地方シンクタンク協議会近畿ブロックや公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボとアルパックが協力して「関西ビジョン研究会」なるものを模索していこうと考えています。

まずは、関西で予定されている「大阪・関西万博」を軸に、関西の観光力の再興について考える講演会を企画し、この 8 月に開催しました。数多くの万博や地方博を成功させてきた博覧会事業の名プロデューサー 福井昌平先生に講演を頂き、過去の博覧会の成功の秘訣と共に、大阪・関西万博を成功に導くアイデアを伺いました。

関西は、世界遺産や国宝・重文が集積し、まさに歴史・文化の宝庫です。大阪・関西万博は、圧倒的な歴史・文化資産を活かし「歴史文化首都＝関西」としての魅

力を国内外に発信する重要なタイミングであること。万博の成功に向けては「地球市民」としての感性の育成と連帯を実現しておく必要があること。また、社会的価値の最大化や大阪・関西の魅力アピールでは「関西・スポーツ首都」、「関西・食文化首都」も戦略として取り上げることも効果的とのこと。さらに、歴史文化首都＝関西を世界に向けて構築するため、国際記念物遺跡会議 (ICOMOS) 世界総会を関西に誘致することも大事だと指摘されました。

「大阪・関西万博」の盛り上がりと市民の活動の醸成はこれからが重要な段階だと思いますが、並行しながら関西ビジョンの具体化に向けて取り組んでいきたいと考えています。



近況 & イベントのお知らせ

大阪都心の上質な下町における「実験店舗」から 見えてくる新しいコミュニティ

中塚一
代表取締役社長

大阪J R環状線寺田町駅近くにその「実験店舗」があります。

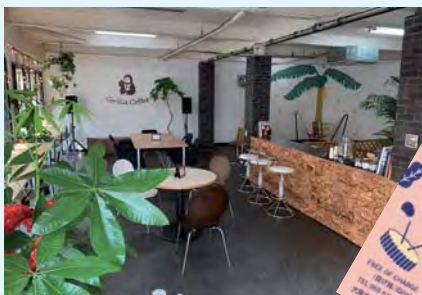
店舗＋立体式ガレージを用途複合型集合住宅へ建替えるプロジェクトに際して「時間的スキマ」が出来たので、オーナーにご理解頂き、年末までの約5カ月間、新しいコミュニティの在り方を問う「実験店舗」として事務所内外の仲間と共に管理運営を行っています。店舗部分のバイク店整備工場跡を、仲間と共にDIYし、カフェ×バー×子どものプレイスペース×イベントスペースにリノベーションしました。家具や備品、ライブ用アンプの機材等は「地域の今を可視化して、人と人の未来をつなぐ」を経営理念とする地域のゆずりあい（シェア）サイトを通じて、無料や低額で譲っていただきました。建築が専門ではない知り合いの女性2名がこの企画のメインメンバーで、20歳代の様々な職種（フリーター含む）の方々が結集して、企画・改修

した新たなコミュニティの「場」。インバウンドと都心回帰で、ファミリー向け分譲マンションや単身者向けワンルーム賃貸マンション、中期滞在用のゲストハウスやホテル、民泊などに大きく変化する大阪・下町の「匂い」や「らしさ」の変化と新たな居住者・来街者にどのようにマッチするのか？建替え後の用途や住戸を含めた暮らし方のニーズやマーケットはどこにあるのか？等、正に「実験店舗」として企画運営しています。

現在、様々な仲間が企画を持ち寄って開催していますが、私は、土曜日夜に知り合いのミュージシャンによるライブ、名作ライブ盤レコード鑑賞会、「寺田町のマンション住まいでも、日本の四季を楽しみたい！」をテーマとした身近な暮らしイベント、各国の大阪在住外国人の方による「もっと身近に〇〇（国名）・ナイト」などを企画運営していきます。（詳細は、実験

店舗（Gorilla CoffeeのLine・Instagram、中塚個人のFacebook）をご覧ください）

今後、ウィズコロナ社会におけるリアルな「コトとヒトの場」によって、どんな新しい出会いや交流が生まれ、上質な下町らしいネットワークやシビックエコノミーが育っていくのが楽しみです。



- ◆ Facebook <https://www.facebook.com/hajime.nakatsuka/>
- ◆ Gorilla Coffee <https://gorillacoffee-osaka.business.site/>



第23回適塾路地奥サロン

「PUBLIC HACK～私的に自由にまちを使う～」を開催しました。

適塾路地奥サロン実行委員会
羽田拓也

第23回は、標題のタイトルの著書を昨年9月に出版された、水辺のまち再生プロジェクト事務局の笹尾和宏さんをお招きしました。当初、3月に実施予定でしたが新型コロナウイルスの感染拡大防止のため8月に延期、オンライン・オフラインの両方での開催となりました。

「PUBLIC HACK」と聞くと少し構えてしまいましたが、公共空間を使って朝ご飯やランチ、音楽を楽しむなど普段の生活における「私的な行為」を自由に楽しむことで、自分たちが楽しく過ごすだけでなく、そこにいる人が楽しそうにしていることが周りにも魅力的に映

ることが、「生き生きとしたまちの風景」につながるのではないか、という提起をされました。

実際にまちなかで色々なことを行ってみると、法的に問題なくても、周囲からの目や通報で制限されることもあります。やる側も周りの人から「同じような過ごし方をしたい」と思う魅力的な風景づくりを意識することが、「まちを使って、まちを楽しむ」ことへの相互理解を生み、豊かなまちのあり方につながると実感しました。





稲垣和哉：

都市・地域プランニンググループ

ま
ち
か
ど

界隈性を科学する

日頃の業務を通じて、まちの界隈性について考えることがよくあるのですが、なかなか一言で簡潔に表現しづらい概念です。

歩道の幅やせり出す看板の大きさや色、行き交う人の性別・年齢や密度など、界隈性を構成する要素はたくさんありますが、皮肉なことに細かく評価し分類すればするほど、実際の界隈が持つ魅力からは遠ざかっていくように感じます。界隈性が、人々の営みがもととなり、長い時間をかけて自然発生的にできたものと考えれば、その要素を抽出し再



大阪ミナミのとある雑多な界隈

その言葉を直接検索します。出てきた検索結果のページを開き、リンクされている関連ページ・画像・動画も見ながら、概念を総合的に理解していくのではな

味で複雑であるのならば、個々の要素を従来のカテゴリで整理整頓するのではなく、相互の関係を保持し、検索可能性を残すような整理の仕方があるかもしれません。

(2) ゲーム空間の界隈性

個人的な話になりますが、中・高生時代はゲームに明け暮れ、インドアな生活を送っていました。今はもうすっかり引退状態ですが、今でも新しいタイトルをチェックしたり、実況配信なども見たりしながら動向はフォローしています。近年のゲームエンジンの性能向上に伴う表現力の豊かさには目を見張るものがあります。空間の表現や人の動きがリアルになり、まちの界隈性がよく表現されているのを見ると、もしかするとゲーム業界はまちの界隈性について都市プランナーやデベロッパーにはないノウハウや知見を持っているのかもしれないと感じます。

少し周辺の分野に目を向けると、参考になりそうなアイデアに溢れていることに気がきます。実際にまちを訪れ、そこで感じることも大事にしつつ、デジタル空間にもせつせと足(?)を運び、そこから学ぶ姿勢も大事にしたいと思うこの頃です。

表紙写真：秋の味覚の一つ天橋立の栗（撮影 ホアン ゴック チャン）

「レターズ アルパック」は、ホームページからご覧いただけます。



アルパック (株) 地域計画建築研究所

Architects, Regional Planners & Associates, Kyoto
https://www.arpak.co.jp E-mail: info@arpak.co.jp

本社・

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四条通高倉西入立売西町82

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大阪事務所 〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル10F

TEL(06)6205-3600 FAX(06)6205-3601

名古屋事務所 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-27-2 日本生命笹島ビル17F

TEL(052)462-1030 FAX(052)462-1061

東京事務所 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-15-7 ユニゾ内神田1丁目ビル4F

TEL(03)5244-5132 FAX(03)6273-7715

九州事務所 〒810-0802 (株) よかネット：福岡市博多区中洲中島町3-8 福岡パルビル8F

TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128

滋賀営業所 〒527-0012 東近江市八日市本町9-14

TEL(0748)36-2065 FAX(0748)36-2168

ホーチミン 0908.CJ Building.2-4-6 Le Thanh Ton street, District 1 HCMC.Vietnam (ベトナム)

TEL+84(028)6255-6732

再エネ100宣言
RE Actionこの用紙は「びわ湖の森を元気にする」
kikitoペーパーを使用しています。